2025 年
（令和 7 年）
1 月 1 日

むつび

石井十次の会　会報

328 号

年頭のごあいさつ

石井十次の会　　会長　橋田　和実

皆様、令和 7 年明けましておめでとうございます。

昨年は異常気象といいますか、全国的に 7 月から 9 月にかけて 36℃を越す猛暑が続きました。さらに宮崎県では 9 月から 10 月まで長雨が続き、その影響で農作物の成育が悪く、収量が激減しました。紅葉もあまり見られず、秋が極端に短くなったような気がします。世界や日本の各地で大規模な自然災害が多発しています。 人類がこれまで地球温暖化対策に消極的だった結果が表れてきたのではないでしょうか。また、戦争や地域紛争も後を絶たず、拡大の方向さえみられます。

国内の地方においては、人口減少と少子高齢化の進行が著しく、各種産業や地域社会において後継者難や人材不足が生じています。さらに、今後は DX や AI、ICT などの推進も考えていかなければなりません。このように、社会の変化が激しく、複雑多様化している現代を我々は生き抜いていかなければなりません。

このような社会環境にあっても、石井記念友愛社は、石井十次の精神文化

をしっかりと受け継ぎ、優れた児童福祉をさらに推進する為に、積極果敢に事業拡大をはかっておられます。必要不可欠な素晴らしい取り組みであります。石井十次は“児童福祉の父“と呼ばれておりますが、児嶋草次郎理事長は私に言わせれば“児童福祉の中興の祖“とでも呼ばれる人物ではないかと思います。

現在、石井記念友愛社で育った子ども達は、高校を卒業してさらに大学や専門学校に進学する人もかなり増えており、まさに社会に貢献したいという人物を送り出しています。この点で施設養育の必要性を切実に訴えておられ、友愛社は我が国の児童福祉施設の手本となる存在であります。

我々、友愛社の後援会としての石井十次の会もさらに活動を充実させ、友愛社と一体となって努力して参りましょう。皆様よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員、関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り致します。

石井記念神武の家開設１０年目間近！！

石井十次の会　西諸支部副支部長　西村　四男

令和６年１０月に高原町は、町制施行９０周年を迎え、多くの町民が参加して記念行事が開催されました。「石井記念神武の家（以下 神武の家）」の子ども達と職員の皆様も早朝から行事に参加して、多くの町民と交流してくださいました。

先日、神武の家へ行くと、元気いっぱいで活発な子ども達の声が玄関先まで聞こえてきました。子ども達は、今、ここで幸せに生活しているのだろうなと感じるとともに、悩みや辛さを我慢することも多いだろうと考える時でもありました。

草次郎理事長が「ゆうあい通信３９１号」で、友愛園に入ってくる子の理由として三つあると書かれていました。①親の事情　②虐待　③子ども自身の事情の大きく三つの理由があり、神武の家の子ども達も、このどれかの理由で集団生活をすることになったのだろうと理解していました。

毎朝、登校の見守りをしています。ほとんどの生徒が車で送迎してもらう中、雨の日も寒い日も自転車で頑張って登校している３名の中学生がいます。神武の家の子ども達です。登校の様子を見守りながら、小学生時代と比べると大きく成長したこの子ども達とあいさつや会話を交わすのが楽しみです。

Ｉさん。１０月に開催された西諸県地区中学校対抗駅伝・ロードレース大会で、雨の中を力走する姿を見つけ、精一杯応援しました。翌日、「頑張ったね。」と声をかけると「うん。」と、答えるだけです。声をかけられた時のいつもの彼らしい応え方だと可愛らしく感じました。

「今日は、私の誕生日です。」と、自分から話しかけるＡさん。中学生になってバレーボール部に所属しています。西諸県地区の大会で優勝して、役場近くの交差点には横断幕が掲げられました。彼女もチームの一員としてりりしい表情で載っています。今度は、県大会出場です。「練習、ちゃんと頑張っているね。」と声をかけると、元気よく「はい！」と返ってきます。

３年生のＭさん。ソフトテニス部で７月まで楽しそうに練習や試合に参加していました。昨年度の立志式では、堂々と将来の夢を発表しました。しかし、部活動を引退してからは、元気のないことがあり、進路決定に向けて悩んでいるのだと思います。「決まったのね。」と声をかけると、「はい・・・でもちょっと・・・。」と不安そうな答えが返ってきます。

それぞれに気になるところもありますが、この子達を励ましたいと見守りを続けています。

神武の家は高原町にあり、開設されて１０年目を迎えようとしています。高原町だけではなく、えびの市や小林市の方々も子ども達を応援しています。神武の家を巣立った子ども達が、いつかまた訪ねたいと思ってくれるような環境をつくる「石井十次の会西諸支部」でありたいと願っています。

これからも「石井十次の会西諸支部」は、様々な活動を通して会員間で情報を共有しながら子ども達を応援していきたいと考えています。

児嶋草次郎理事長の講話を拝聴

１０月１２日　三水会で石井記念友愛社 児嶋草次郎理事長の講話を拝聴する機会を得た。
講話題は「十次に学ぶ・十次を受け継ぐ」。
※ちなみに三水会とは、小学校教師だけのしかも体育だけを対象とする４０年を超える私的な研究団体。
竹之下が主宰なので参加者１８名には、当然のことながら感想を求めた。
現在取りまとめ中であるが、その概要を紹介する。

十次の青春時代は「挫折の連続」であったと会場掲示の紙芝居で紹介された。そして、失敗を繰り返したとしても立ち直りこそが大切であるとも。
そのとき、提示された「立ち直りの三原則」は、①親(に代わる)の愛情　②志　③出会い　である。
この「立ち直りの三原則」は教育に携わる会員全てに共感的に強く響いた由。

さらには、最後に歴史家Ｅ・Ｈ・カーの「歴史は現在と過去との対話である」の言葉を紹介された。
理事長自身が友愛社運営にあたり、現在と過去の対話を繰り返し、何が本質なのかを真剣に求め続けているからこそと感動した者多数。
高鍋町に7 月グランドオープンした共生・複合施設「友愛の森」は理事長の人生の集大成的なものであると竹之下は理解している。

講話全体は会員の心に深く深く染み入った。その詳細はとてもであるが筆舌に尽くし難い。
が、会員一同　石井十次の会員として「環」を拡げる役割を果たすことは再確認しあったことであった。

編集委員長　竹之下　悟

方舟館からのお知らせ

明治末期、岡山から移築され、石井記念友愛社の敷地内に立つ方舟館。現在は石井十次資料館の案内窓口、また、石井十次の会事務局として使われています。

★新会員のご紹介（敬称略）

【宮崎市】松竹 妙子 【延岡市】岡田 京子 【小林市】立山 真由美　【高原町】相良 禮子
【高鍋町】木下浩利・ほなみ　【埼玉県】山口 匡和

★ご寄付をいただきました（敬称略）

【宮崎市】日髙 亜紀 【東京都】鬼塚　信子 【神奈川県】加行 尚 【岡山県】佐藤 晃一

ここまでの掲載者は編集等の都合により１２月１３日までのものとしています。

★次回の通信発送作業は ２月１２日（水）１３日（木）いずれも9時からです。
お手伝いいただける方は 0983−32−4612 までお電話ください。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。
〒 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1
社会福祉法人　石井記念友愛社後援会
石井十次の会
TEL/FAX　0983-32-4612
メール　yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

新年の幕開けにふさわしい橋田和実会長の俯瞰的・具体的な巻頭言に感謝します。佳き年であることを祈念します。

編集委員長　竹之下　悟